

技術士包装物会関西支部発足期の回想



五十嵐 清一

当会が輝かしい創立 50 周年を迎えるに当たり、関西支部が設立され、発足した当初の黎明期について回想してみたい。

関西支部が発足したのは 1990 年であると記憶しているが、支部発足に先立ち私は当時本部で行われていた研究会に数回参加し、その雰囲気をも観察している内に大変羨ましくなり、関西でもやってみたくと数名の親しい方に相談した上で決行を決断した。当時の水口会長にお願いし、本部から些少の予算を頂くとともに支部運営についての救援をお願いして関西支部は歩み始めた。しかし、出発当初は皆さん方が若く企業内で多忙を極めていたため、年に 4 回程度の研究会にも参加者はわずか数名程度で推移し、私の気持ちの中には閉会という寂しい二字が常に心の片隅を行き来していたことが思い出される。暫くすると当時の府立大阪工業奨励館の上原部長他の方々のご厚意により無料で研究会場使用の提供を受けたり、包装管理士会の関西支部長をしておられた金井さんの仕事の関連で関西近隣の紫煙荘で泊まり込みで研究会や忘年会をしたことなどの助力を受け、私の脳裏から閉会という文字が消えていったことが嬉しく思い出されるが、このようにして技術士以外の方々と親交を深め、さらにその輪を広げることに意を注いでいった。そのような試みが功を奏してか少しずつ研究会への参加者も増え明るさが見え始めるようになっていったように思われる。

私の退職を機に支部長を富士さんをお願いすることになったが、爾来歴代の支部長および各役員の方々の並々ならぬ努力により最近の研究会への参加者は何時も 30 名位に増え、研究発表の内容も充実味を増しているのは喜ばしいこと

であるが、何時までも「初心忘るべからず」と言われるように苦しかったスタート時を忘れることなく更なる成長を期待したい。

また、秋には本部から必ず数名の方が関西の研究会に参加して頂き研究会を盛り上げて頂き、翌日には懇親ゴルフをするなどお互いの親交を深めたことも忘れることのできない思い出になっております。